

新たな広域連携のあり方

～地域資源を未来への資本に変える～



「地域活性化」に取り組まなければ…と言われ始めてから、どれくらいたつのでしょうか。全国的に「成功事例」「先駆的な取り組み」と賞される地域がありますが、「地域活性化」という、この言葉が意味する最終的なゴールにたどり着いた地域は、はたしてあるのでしょうか？

歩みを止めてしまえば、先進地からあっという間に後進地に成り下がってしまいます。歩みを止めず、日々創意工夫を繰り返す、そのような努力を絶え間なく行い、これからも行う覚悟がある地域こそが、真の活性化に近づくのではないのでしょうか。

「栃木県北サイクルツーリズム推進協議会」は、今地域にある潜在的な資源を有効活用し、1つ空の下、広域的な観光スタイルを自転車というツールを基軸に訴求していくことで、地域経済の活性化を図ることを目的に設立されました。

今号では、協議会の理念や取り組みについて、詳しく紹介します。



TOCHIGI-KEN70KU
CYCLE TOURISM
栃木県北サイクルツーリズム推進協議会

自転車で県北地域を盛り上げる！ 「栃木県北サイクルツーリズム推進協議会」

「栃木県北サイクルツーリズム推進協議会」の理念や取り組みを紹介するため、サイクルライフナビゲーターの絹代さんに聞き手をお願いし、協議会の委員である「NASPO

株式会社」社長の若杉さん、県北地域を拠点に活躍する「那須高原オールスポーツアソシエーション」（通称 NASA）会長の高根沢さんにお話を伺いました。



サイクルライフナビゲーター
絹代

NASPO 株式会社 社長
若杉 厚仁

NASA 会長
高根沢 武一

自転車イベントのMCとして活躍中。多岐にわたる自転車の楽しみ方の紹介など、自転車の普及活動や、時には自転車イベントの企画スタッフも務める。

2013年「宇都宮ブリッツェン」から「那須ブラーゼン」に移籍、選手兼運営マネージャーに就任。2016年より那須ブラーゼン運営会社「NASPO 株式会社」の代表取締役を務める。

イベント会社「栃木プロジェクトプロ」代表取締役社長。2012年スポーツを通じた新たな観光のまちづくりを目指し、有志で通称「NASA」を設立。

01 協議会の概要や目的を教えてください



矢板市・那須町・大田原市・那須塩原市が位置する県北地域は、東京圏から日帰りで観光が楽しめる地域として人気があります。近年の観光スタイルは、テーマや目的を明確にし、それに沿った訪問地や体験などを組み込んだ「自分オリジナルの旅」への需要が高まっています。また、

サイクルスポーツへの関心が高まっていることから、サイクルツーリズムを核として県北地域が連携し、各市町が持つ強みを伸ばし、弱みを補いながら事業を実施することが効果的と考え、平成29年2月に協議会を設立しました。協議会には、関係市町をはじめ、那須ロングライドを主催するNASA（那須高原オールスポーツアソシエーション）、プロロードレースチームの那須ブラーゼンを運営するNASPO（株）が会員となっています。

【目的】

- 県北地域の経済活性化や来訪者の受け入れ体制の強化を図ることを目的に、以下の4項目を主軸に活動を行います。
- ・県北地域全体のサイクルツーリズムの推進
 - ・農林畜産物や観光資源の効果的な情報発信
 - ・新たな顧客の獲得や雇用の創出
 - ・スポーツボランティア制度の構築

【目標】

- 目的を果たすために、次のような目標を掲げました。
- ・サイクルツーリズムの推進による経済活性化
 - ・WEBサイトを用いた効果的な情報発信と誘客増進
 - ・地域内部での地域資源の活用
 - ・マーケティングを通じた地域ブランド力の強化
 - ・通過点から「目的地」となるための観光地域づくり
 - ・インバウンド、外国人向け商品の造成

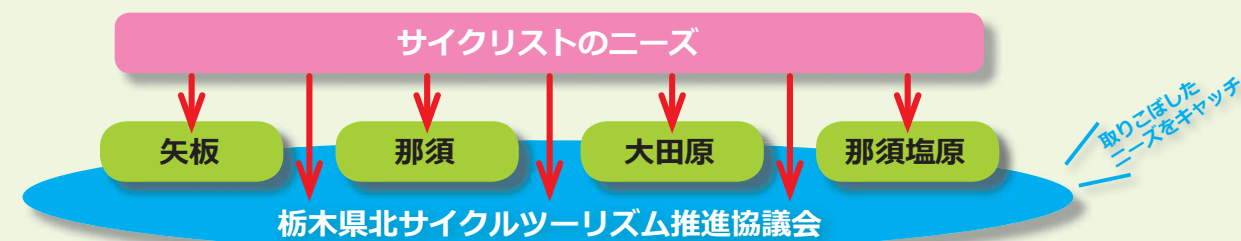
02 この協議会の取り組みは、他地域のモデルになる可能性がある



構成市町はともにサイクルツーリズムの推進を図っており、近年は全国各地から訪れるサイクリストが増加傾向にあります。しかし、地域の魅力的な食や産業・宿泊・観光に関する情報が、一元化されていないことから、サイクリストのニーズの取りこぼしや、誘客効果が農業・産業・観光の振興に十分に結びつけれられていない現状です。また、自転車イベントや大会などの継続的な開催など、年間を通してより多くのサイクリストを取り込むためにも参加者や来訪者が安心して自転車に乗ることができる環境を整えなければなりません。これらを解決するためには、安心し

て走ることができる道路などのハード整備のほか、おもてなしの充実や受け入れ体制の強化を図るための人材確保や、サイクリストに向けた広域的な情報発信のプラットフォームとしてWEBサイトの構築、宿泊施設と連携したサイクリスト向けのパッケージツアーの造成のほか、人材を効率的・安定的に確保するためのスポーツボランティア制度の構築などを広域的に取り組むことが必要となります。

地域ブランド力の強化、滞在型観光・グリーンツーリズムの推進を図ることで、栃木県北でしか体験できない旅を提供するなど、より多くのニーズの受け皿として、きめ細やかに対応できる体制をとることができます。このような広域的な取り組みは、全国的にも珍しく、確立すれば他地域のモデルになると思います。



03 地域の実情に応じた計画づくりを

私から、国の自転車活用法に基づく自転車活用計画について、説明します。国の自転車活用法に基づく自転車活用計画については、平成29年5月に法律が施行され、以下の4つを基本理念に、自転車の活用を総合的・計画に推進するための法律です。

- 自転車は、二酸化炭素等を発生せず、災害時において機動的
- 自動車依存の低減により、健康増進・交通混雑の緩和等、経済的、社会的な効果
- 交通体系における自転車による交通の役割が拡大
- 交通安全の確保

また、同時に国の基本目標が示され、地方自治体に対しても計画の策定が求められています。

これを受けて、協議会でも県北地域を包括する自転車活用推進計画を策定するようですが、国の基本目標は、自転車に係る施策全般を網羅したものになっているので、自治体が計画を策定する際は、それにならうのではなく、国との役割分担を適切に明示し、地域の実情に応じた施策を行うための計画をつくってほしいと思います。



自転車活用推進法に基づく国の基本目標

【目標①】

自転車交通の役割拡大による良好な都市環境の形成

- ・自転車通行空間の計画的な整備促進
- ・路外駐車場等の整備および違法駐車取り締まりの推進
- ・シェアサイクルの普及促進・自転車のIoT化の促進
- ・地域のニーズに応じた駐車場の整備推進
- ・まちづくりと連携した総合的な取組の実施

【目標②】

サイクルスポーツの振興等による活力ある健康長寿社会の実現

- ・国際規格に合致した自転車競技施設の整備促進
- ・サイクルスポーツ振興の推進・自転車通勤等の促進
- ・自転車を活用した健康づくりの推進

【目標③】

サイクルツーリズムの推進による観光立国の実現

- ・国際的なサイクリング大会等の誘致
- ・世界に誇るサイクリング環境の創出

【目標④】

自転車事故のない安全で安心な社会の実現

- ・安全性の高い自転車普及の促進
- ・自転車の点検整備の促進
- ・自転車の安全利用の促進
- ・学校における交通安全教育の推進
- ・自転車通行空間の計画的な整備推進
- ・災害時における自転車活用の推進

04 ゴールを設定することで、それを達成するプロセスがみえる



県北版の自転車活用推進計画とサイクルツーリズムの考え方を融合し、地域が連携し総合的・計画的に取り組む活動にしたいと考えます。県北部のそれぞれの地域で固有の資源や課題を可視化し、新しい事業としての展開や雇用の創出につながるプロジェクトとします。具体的には、各地域における

活動を一貫通した視点でとらえることで、ネットワークの構築、文化や日本遺産・世界遺産などの魅力的なコンテンツ、2次交通としての道路整備、安全性、自転車技師やボランティアの人材育成など、課題を1つひとつクリアし、1つのパッケージとして機能させることで、地域同士の意見交換や情報の発信が活発化し、自転車が地域活性化のツールの1つとして、日々の暮らしの中できちんと根付くようになると思います。

「目指すゴール」は…

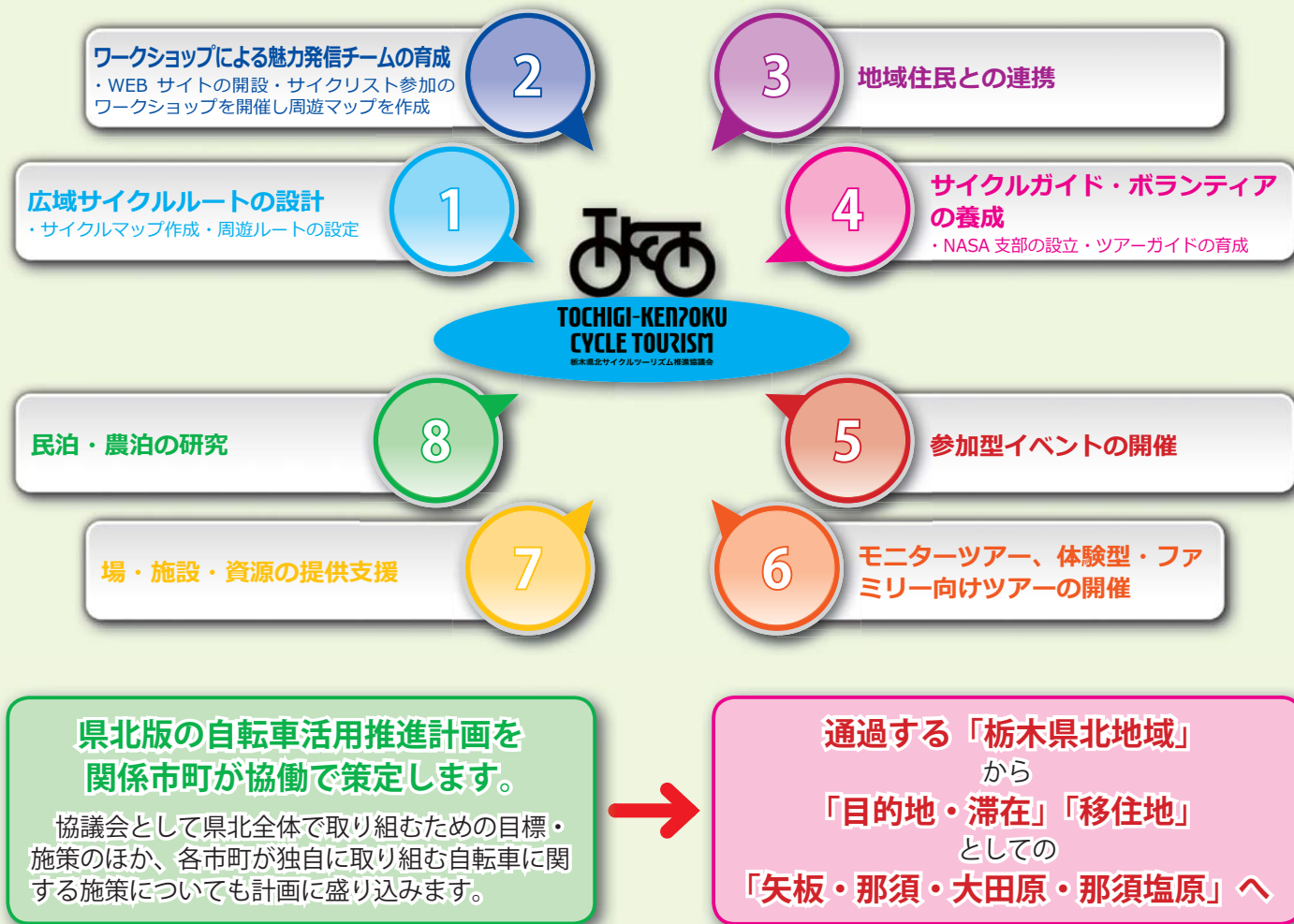
サイクルスポーツで「**ヒト**」「**モノ**」「**カネ**」が動く
地域づくりのマネジメント

「コンセプト」は…

「環境・資源を活用したサイクルツーリズム」

地域の自然環境、潜在的な観光資源を有効活用し、「ブランド力」「発信力」「訴求力」の向上を図る

「事業展開の全体像」は…



05 空に境界線はない！「One Sky Project in TOCHIGI」



県北サイクルツーリズム協議会の活動を「One Sky Project in TOCHIGI」と呼んでいます。

現在、県北地域では、他地域よりもサイクリストに対していろいろな面で優しいことや、県も自転車への取り組みに対して理解を示し推進を後押ししてくれている環

境があることから、矢板市・那須町・大田原市・那須塩原市、それぞれの地域が持つ固有の資源は、現在も地域の個性を生かした部分最適として機能しています。

自転車活用推進法という傘の中で、県北地域が連携できれば、部分最適として機能していた全てのものが地方創生と地域活性化への全体最適として機能するのではないのでしょうか。

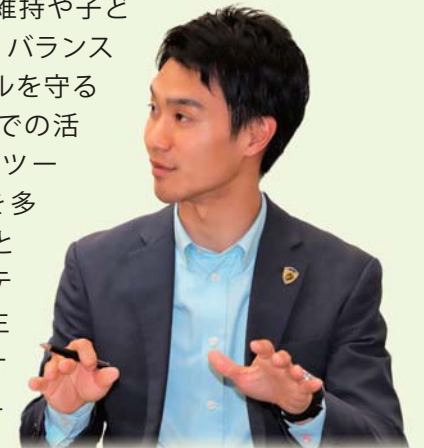
つながることで資源や人材の交流はもとより、アイデアやサービスなど、「モノ」や「コト」の流通なども容易になり、広域的に多様な資源へのアクセスが可能になります。この強みが「One Sky Project in TOCHIGI」の持つポテンシャルです。

06 ひとつ空の下、県北地域が1つにつながる「One Sky ROAD」

県北地域を周遊し、世界遺産のある日光と日本有数の観光地を擁する那須エリアをつなぐ道路を「One Sky ROAD」と名付け、公共交通機関との連携、それぞれの地域の施策などを付加させることで、サイクルツーリズムのメインロードとして機能させることができれば、自転車活用推進法の先進的なモデルになるものと考えています。

具体的には、自転車に+α（スイーツ、グルメ、癒やし、風景、温泉、宿泊 など）の要素を結び付け、インバウンドや観光などの集客に向けた地域ならではの魅力を創造し発信することで、広くサイクリストの関心に結び付けることができます。また、ヘルスツーリズム

的発想から、健康維持や子どもたちの運動能力・バランス感覚の習得やルールを守るといった成長過程での活用など、サイクルツーリズムの多様性を多角的にとらえることで、地域の持つポテンシャルをさらに生かした、モデルケースになるものと考えます。



07 地域間の連携が豊かなアイデアを育む



私たちは今、時代の踊り場に立っています。さまざまな事象の中から取捨選択し、スピード感をもって自らの価値を見出す日々が続きます。

しかし、地域という古来からの枠組みがある限り、そこに暮らす人びとのつながりや地域への思いは無くな

ることのない資産と考えます。サイクルツーリズムを通して見えてくるこの考え方は、決してサイクリストのためだけのものではなく、今の社会のあり方を考える1つのきっかけになるはずです。

「まちづくりは人づくり」決して終わることのない取り組みです。この協議会は、さまざまな歴史をもつ複数の地域が1つのゴールを目指して集まりました。それぞれがもつ地域の物語を大切にしつつ、さまざまな思考と試行を繰り返しながら、資源のブラッシュアップを行い、大きな可能性をもったこのプロジェクトを地域の皆さんとともに育んでいき、県北地域全体の活性化につなげられることを期待しています。